

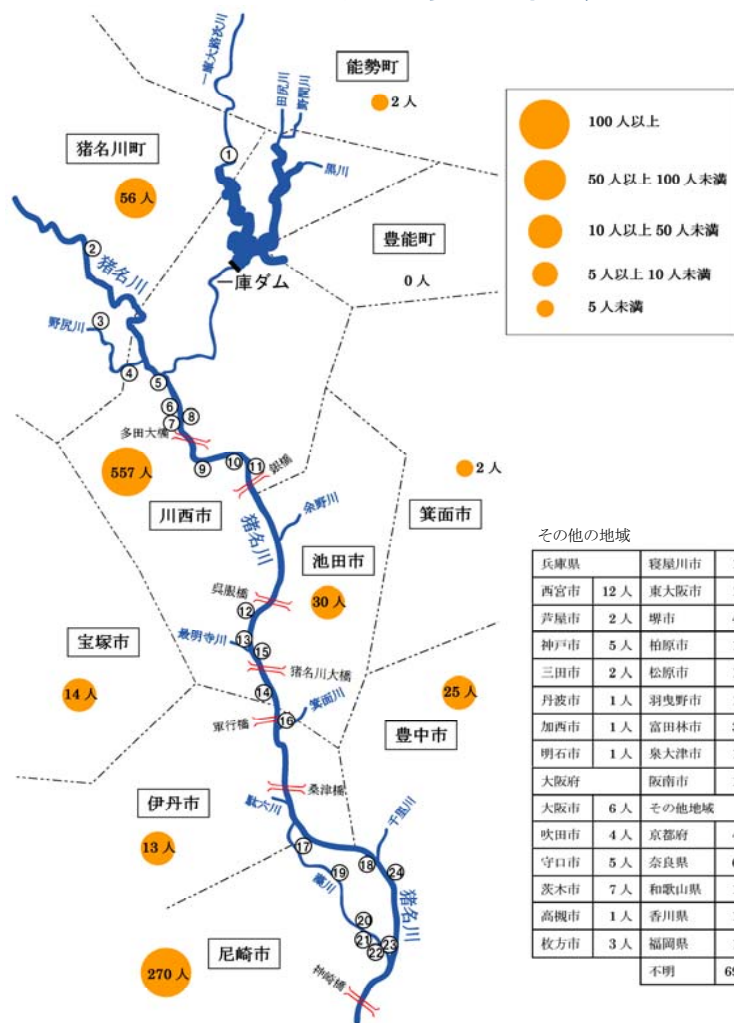
## 「第7回 猪名川クリーン作戦」へ参加・協力

平成22年2月6日、猪名川クリーン作戦実行委員会の主催する「第7回 猪名川クリーン作戦」が開催されました。当日は、猪名川流域24箇所、住民、企業、行政関係者ら1000人を超える参加者が水辺のゴミを拾い集め、猪名川から多くのゴミを回収しました。参加者が拾い集めたゴミは、後日、自治体や河川管理者が回収しました。

ゴミ回収のあとは、水質調査をしたり、トン汁やお餅が振舞われるなど、箇所ごとに趣向を凝らしたイベントも行われ、水辺での人の交流がありました。

河川レンジャーは、ゴミ回収や道具類の貸し出し依頼など、行政との調整役として協力し、当日も清掃活動や受付のお手伝いをしました。

### ◆地域の参加者数



### ◆参加者の声

- ・一見してきれいな所だと思ったけど、狭い範囲でも大量のゴミがあるのに驚いた。
- ・色々なゴミ等がたくさんあり、一人一人がゴミを捨てないよう気をつけていべきだと感じました。
- ・ゴミの種類が缶や瓶、家庭ゴミの放置も見受けられる。ゴミを捨てない、河川を美しくするという啓発を町をあげてする必要がある。
- ・一人でも多くの人に参加して、皆で自然を守る。又、地域をきれいにしていこうという気持ちになれば良いな...
- ・もっとPRが必要。知っている人が少ない。
- ・年に一回だけでなくもっと回数を増やしてほしい。
- ・清掃後はさっぱりした気持ちになった。
- ・小さい子供達と一緒に参加してくれてとても良いことだと思います。
- ・生まれも、育ちも猪名川。これからも関わっていきます。



### ◆参加人数の推移

	実施年月	実施場所	実施団体	参加者数
第1回	2004年7月	5ヶ所		260人
第2回	2005年2月	2ヶ所		323人
第3回	2006年2月	3ヶ所	4団体	400人
第4回	2007年2月	10ヶ所	11団体	608人
第5回	2008年2月	15ヶ所	28団体	571人
第6回	2009年2月	19ヶ所	41団体	998人
第7回	2010年2月	24ヶ所	48団体	1115人

## 河川レンジャーって何?

『河川レンジャー』は、地域と連携した河川整備を進めるうえで、住民に川に関心を持ってもらい、住民参加型の河川整備の推進を支援する立場で、**住民と行政との関係をコーディネートし、人と川をつなぐ役割を担っています。**猪名川流域の水辺での活動などを通じて、「防災」「維持管理」「河川利用」「環境保全」「水辺文化」の5つの分野に貢献しています。

猪名川河川レンジャーに関するお問い合わせは、下記HP・メールアドレスをご利用頂くか、猪名川河川事務所 管理課までご連絡下さい。

猪名川河川レンジャーのホームページ：<http://iranger.web.fc2.com/>  
メールアドレス：[inagawa\\_ranger@ss.pacific.co.jp](mailto:inagawa_ranger@ss.pacific.co.jp)

猪名川河川レンジャー

猪名川河川事務所 管理課 電話番号：072-751-1111(代表) 住所：池田市上池田2丁目2番39号

(発行日：平成22年3月)

人と川をつなぐ

# 猪名川河川レンジャー

NewsLetter vol.2

猪名川をこんな川にしたい!  
意見交換を通して、水辺の活動をつなぐ糸口を探る

## シリーズ「猪名川を知ろう」

- ・猪名川における外来種の現状と取り組みについて

## 河川レンジャー活動レポート

- ・他の河川での活動を知る  
～「淀川管内河川レンジャー活動発表・交流会」に参加～
- ・地域住民の取り組みを考える  
～「第6回 水辺フォーラム」に参加・協力～

- ・猪名川をより良い川にする  
取り組みを考える  
～「第4回 流域意見交換会」を開催～  
望ましい猪名川のイメージとそれを実現するための連携・協力の方法について意見交換

- ・猪名川をきれいにする  
～「第7回 猪名川クリーン作戦」に参加・協力～





# シリーズ「猪名川を知ろう」 NO.4

## 猪名川の環境 その2 環境保全の取り組み(1)



榎原R

河川管理者は、治水、利水のほかに、河川の調査で得られたデータなどをもとに、環境に配慮した川づくりにも取り組んでいます。近年は、外来種が急増していることから、日本固有の植物や魚類・昆虫類を守るための外来種対策にも力を入れています。

今回は、猪名川における外来種の現状と取り組みについて紹介します。

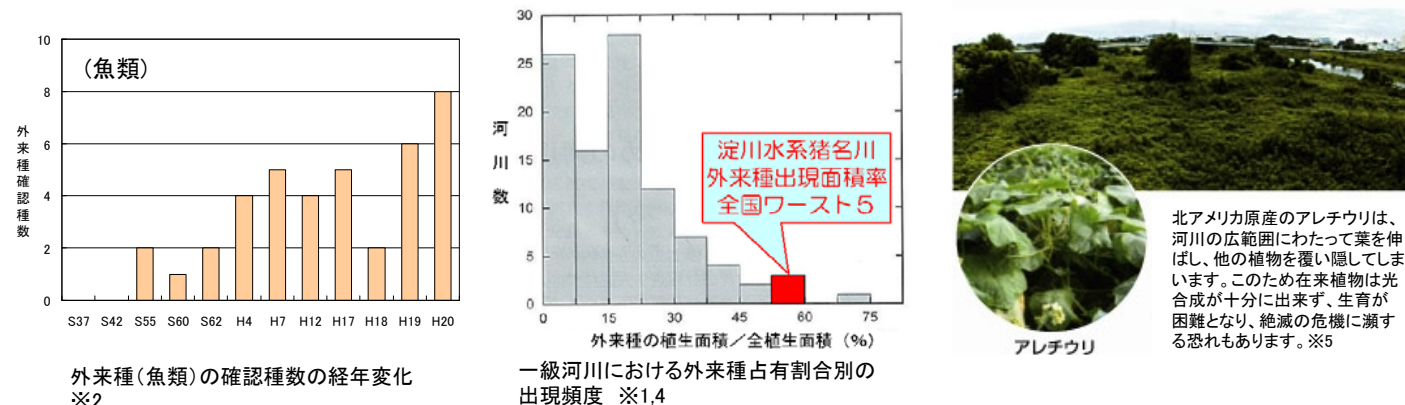
### ●外来種の進入※1,2

猪名川では、1980年頃から、オオクチバスやブルーギル等の外来種(魚類)が確認されはじめ、ウシガエル、ミシシippアカミガメ(両生類)、カワラバト(鳥類)等が目立って増えてきています。

平成16年度に行われた「河川水辺の国勢調査」では、猪名川で確認された植物347種のうち、30%を超える113種が外来種でした。全国の平均的な割合は11~19%で、この割合は、全国の一級河川の中でも最も高い数字です※3。

また、外来植物群落の面積の割合を見ても、全国の一級河川の平均が17%であるのに対して、猪名川では50%以上で、全国の一級河川の上位5河川の1つとなっています※4。

現状のままでは外来植物が優勢になることで、多くの在来植物が駆逐され、永久に失われてしまう可能性もあります。猪名川では、特に、「侵略的外来種」であるアレチウリ(植物)の繁茂が脅威となっています。



北アメリカ原産のアレチウリは、河川の広範囲にわたって葉を伸ばし、他の植物を覆い隠してしまいます。このため在来植物は光合成が十分に出来ず、生育が困難となり、絶滅の危機に瀕する恐れもあります。※5

### ●外来種対策

猪名川での外来種対策については、河川管理者である国土交通省猪名川河川事務所が作成した「淀川水系猪名川自然再生計画書」の中で、以下のように記載されています。

「外来生物の対策には、発生源対策や「入れない」、「捨てない」、「拡げない」といった被害予防の普及啓発、監視活動が必要である。関係部局や地域住民と調整を図りながら防除体制などの地域連携を構築する必要がある。」※6

また、すでに、アレチウリの駆除活動や地域住民も参加する形での外来種についての勉強会などに取り組んでいます。

### ●用語

**河川水辺の国勢調査:**平成2年度より建設省(現国土交通省)が全国109水系の1級水系河川で行っている調査で、6項目の生物調査と河川の瀬・淵の状況などを調べる河川調査、河川空間の利用者などを調査する「河川空間利用実態調査」からなります。生物調査はおよそ5年に1回の間隔で行われています。※7

**侵略的外来種:**外来種の中で、地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのあるものを、特に侵略的外来種といいます。※8

出典)

- ※1第9回 猪名川自然環境委員会(平成19年3月) 資料
- ※2第13回 猪名川自然環境委員会(平成20年10月) 資料
- ※3 外来種影響・対策委員会(2001.7):河川における外来種対策に向けて、(財)リーパーフロント整備センター
- ※4 宮脇成生・鷲谷いづみ(2004):生物多様性保全のための河川における侵略的外来種の管理、応用生態工学6(2), pp.195-209
- ※5 いながわネット、国土交通省 猪名川河川事務所 <http://www.inagawa.kkr.mlit.go.jp/busi/work/nature/index.html>
- ※6 淀川水系猪名川自然再生計画書、国土交通省 猪名川河川事務所
- ※7 河川環境データベース、国土交通省 [http://www3.river.go.jp/index\\_mizube.htm](http://www3.river.go.jp/index_mizube.htm)
- ※8 外来生物法、環境省 <http://www.env.go.jp/nature/intro/1outline/basic.html#basic2>

# 河川レンジャー 活動レポート



教山R

## 「淀川管内河川レンジャー活動発表・交流会」へ参加

平成21年12月12日、中央流域センター(枚方市)に、淀川水系で活動する河川レンジャーが集まり、「淀川管内河川レンジャー活動発表・交流会」が開催されました。

様々な地域で活動する河川レンジャーの交流を目的に開催された、今回の交流会では、それぞれの活動の発表、テーマに分かれてのグループ討論などが行われました。猪名川河川レンジャーでは、榎原レンジャーが参加し、猪名川クリーン作戦での取り組みについて発表しました。地域によって、様々な取り組みがあることが再認識できました。

## 「第6回 水辺フォーラム」へ参加・協力

平成21年12月12日、安田記念会館(尼崎市)で、水辺まつり実行委員会の主催する「第6回 水辺フォーラム」が開催されました。昨年のワークショップでまとめられた、環境と防災の行動プランを実行に移すために、具体的な企画についてアイデアを出し合いました。栄木レンジャーが参加し、地域の防災の取り組みの紹介やプログラムとして、自身の出前講座を提案しました。



## 「第4回 流域意見交換会」を開催

平成22年1月17日、川西市生涯学習センターにおいて、河川レンジャー主催の「第4回 流域意見交換会」が開催されました。より良い猪名川をつくるために、美化活動などで、住民、企業、行政などがどのように連携をとっていけばよいのかについて、ワークショップ形式で話し合いました。

今回の流域意見交換会は、毎年、一斉清掃活動「猪名川クリーン作戦」を行っている、猪名川クリーン作戦実行委員会から行政へ要望書が提出されたことをきっかけに、河川レンジャーが住民と行政が意見を交わせる場をつくりたいという思いから企画されました。

河川レンジャーの持つネットワークを活かして呼びかけをしたことで、当日は、有識者、猪名川流域の活動団体、企業、自治体、河川管理者など様々な立場の人が参加しました。活動団体、企業による清掃活動の発表、有識者による講演などもあり、ワークショップでは活発に意見が交わされました。

### ワークショップで出された意見(概略)

	猪名川はこんな川にしたい	そのために必要な活動	連携・協力の必要性
A班	●ゴミのない川 ●暮らしに身近な川 ●自然豊かな川	●猪名川の自然に対する関心を高める ●環境学習 ●ゴミを捨てにくくする	●各団体の河川清掃日を一元管理 ●河川周辺の企業との連携 ●行政の一本化
B班	●鳥や昆虫にやさしい川 ●情緒豊かな川 ●子どもが遊びに来たい川 ●きれいな水の豊かな川	●瀬と淵の回復、在来種の植物を増やす ●子ども達が水辺で遊べる環境や機会をつくる ●ゴミを拾う仲間を増やす	●住民・行政・企業の定期的意見交換 ●水辺遊びの指導者育成 ●年齢別の学習、カリキュラムを学校、地域みんなで考える
C班	●生物が豊か、外来種のない川 ●ゴミがない川 ●遊べる川 ●水質がよい川	●環境破壊によって起こりうる問題を知らせてもらう ●市民の見守り、ゴミ拾いの拡大、ゴミを捨てない ●環境学習の実施 ●定期的な水質の調査	●団体と周辺住民が一緒になって取り組む ●団体活動者同士の効果ある取組について情報交換 ●拾ったゴミを行政が処理する等行政と住民の一体化
D班	●きれいな川 ●生き物がある川 ●子どもがそべる川 ●安全な川	●捨てさせない対策(ゴミを捨てにくくする、監視カメラをつける、パトロール、法制化、川の利用を促進する)	●一級河川、県と市の連携 ●住民と利用者が一緒にゴミ拾い ●行政と漁組と自治会で、地区毎の川の生き物調査

「猪名川をこんな川にしたい」という項目では、大きく、「ゴミのない川」、「きれいな川」、「生物や自然が豊かな川」、「子どもが遊べる川」の4種類のイメージが挙げられ、対策として必要な活動には、ゴミの不法投棄対策などで具体的な意見やアイデアが出されました。連携・協力の必要性については、住民、行政、企業、学校など様々な主体間での話し合いや情報、意見交換をすることを指摘する声が多くグループで出されました。今後も、今回のような意見交換の場を設けて、話し合いを重ねていくことが大切です。